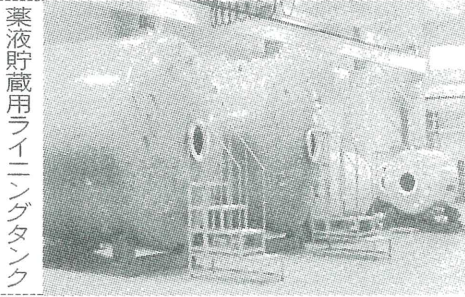


半導体装置用フッ素樹脂製品

バルカー、世界体制構築へ

バルカーは半導体市場向けフッ素樹脂製品の世界体制を構築する。ファウンドリーの大型設備投資を背景に受注が増加する半導体製造向け薬液貯蔵用ライニングタンク(特殊タンク)は、米ヒューストン拠点で組織改革を実施し旺盛な現地需要への対応を可能にした。2025年の稼働を予定する愛知県田原市の新工場とマザー工場となる台湾拠点と結んだ3極での世界展開を構想する。半導体製造装置用樹脂加工品は上海拠点と国内の協力工場を軸にプロダクトミックスを実施し収益性を高めた。神田太輔常務執行役員・高機能樹脂・製品本部長は「グローバル視点で事業を強化し、伸長需要を確実に捕捉する」と話す。



薬液貯蔵用ライニングタンク



神田常務

バルカーの機能樹脂製品事業の23年4～6月期は、セグメント売上高が前年同期比24・8%増の49億円、セグメント利益は2・5倍となる8億円

特殊タンク 日米台3極で展開
加工品 上海拠点を合併化

と大幅な増収増益となった。同事業は、21年3月期にセグメント損失を計上。その対策として取り組んだ事業構造改革では、営業・生産を製品ご

とに一気通貫体制とし、高付加価値品を主軸とした製品群の再構成や生産の外部委託について「迅速に判断できるようにした(神田常務)。その後のセグメント利益率を22年には9・1%、23年には11・8%と改善、今期4～6月は17・1%となった。現状の受注動向に変化が見えないことから「少なくとも上期はこの状況が続く」と見通す。

半導体製造向け薬液貯蔵用特殊タンクはフッ素樹脂製のライニングシートを金属や繊維強化プラスチック(FRP)に接着しシートの合わせ目を溶接、接液部を保護ライニングしたもので薬液貯蔵を目的に製造ラインおよび搬送で使用される。半導体市場は既存品の市場拡大に微細化、複層化といった技術進展が加わ

21年に稼働した台湾新拠点に続き、愛知県田原市で新工場の建設を進める。米ヒューストンのバルカーINCは、17年に現地企業を買収し子会社したもので、これまで特定顧客を中心に特殊タンクを製造してきた。米国内で半導体投資が再開したことを受け、新規の引き合いが急増したことか

台湾および日本と機能的に結ぶことで「世界市場への安定供給体制を確立する」と考え、半導体製造装置用樹脂加工品はウエットエッチング工程向け構造部品用などで販売が増加する。顧客からも「強気なフオートキャストが出ている」と(同)ことから、今後の伸長が期待できる。22年には上海拠点の出資持分のうち51%を現地企業に譲渡。合併企業とするこ

とで、旺盛な現地需要に迅速に対応できる体制とした。今後、グローバルで需要増が見通せることから、協力工場への増産要請に加え一国内自社工場での生産も検討する(神田常務)。